

Learn to weave on the
Sample*It* Loom

サンプルイットルームの使い方



サンプルイトルームの組み立て方

組み立てる前に、この説明書にひととおり目を通して、部品の名前やポイントを頭に入れておくと、より簡単に組み立てることができます。木肌にささくれなどがある場合は、付属の紙やすりをお使い下さい。

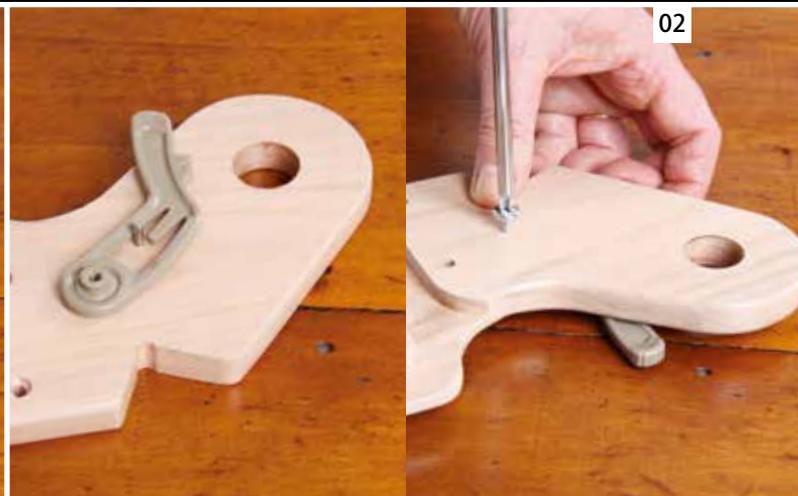
木材の保護について-織り機を湿度や温度の変化、汚れやシミから守るために、組み立て前の塗装をお勧めします。塗装には、アシュフォードのワックスポリッシュをお使い下さい。シルキーなつや消し仕上げが、ニュージーランド原産のシルバービーチ材の持つ自然の色と木目の魅力を一層引き立てます。





01

右の側木を平らなところに置き、前後2カ所にある小さな穴に金属ピンを打ち込みます。ピンは穴の底まできちんと打ち込んで下さい。



02

ピンの隣にある大きめの穴にストッパーを差し込み、先の平らなネジで裏側から留めます。ストッパーが軽く動く様に0.5mm程の余裕を残して留めて下さい。ピンはストッパーの内部に納まります。ネジが回りにくい時は、ロウを塗ります。



03

側木に後レールを取り付けます。クランプを差し込むための穴を下にして、2本の木ネジでしっかりと留めて下さい。



04

同じ様に、側木に前レールを取り付けます。

05



前後のローラーそれぞれの両端に口ウを塗り、切れ込みが長い方（ハンドルを取り付ける方）を、右の側木に差し込みます。

06



ローラーの反対側に左の側木を差し込み、前後のレールに木ネジでしっかりと固定します。

07



前後のローラーに歯車を取り付けます。この時、歯車の歯の先端の向きに注意して下さい。歯はストッパーのツメとしっかりと噛みあう様になっています。噛み合わない場合は、歯車を裏返します。

08

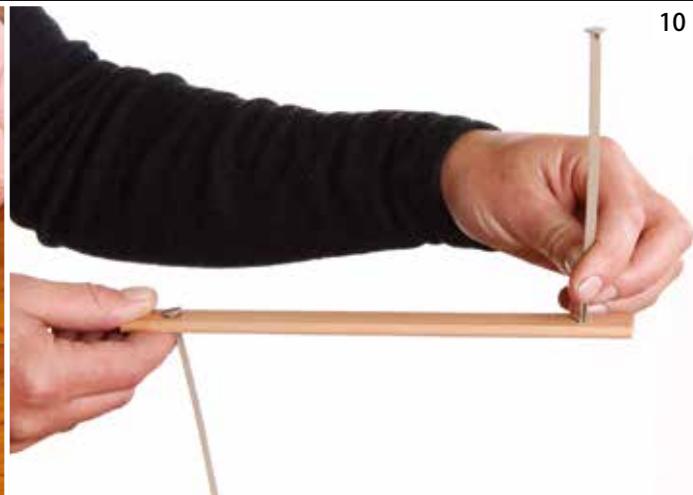


歯の向きが正しいことを確認したら、歯車の上にワッシャーを乗せ、先の尖ったネジでローラーにしっかりと固定します。



09

ハンドルの裏の突起を歯車の穴と合わせ、手のひらを使って、パチンと音がするまでしっかりと押し込みます。



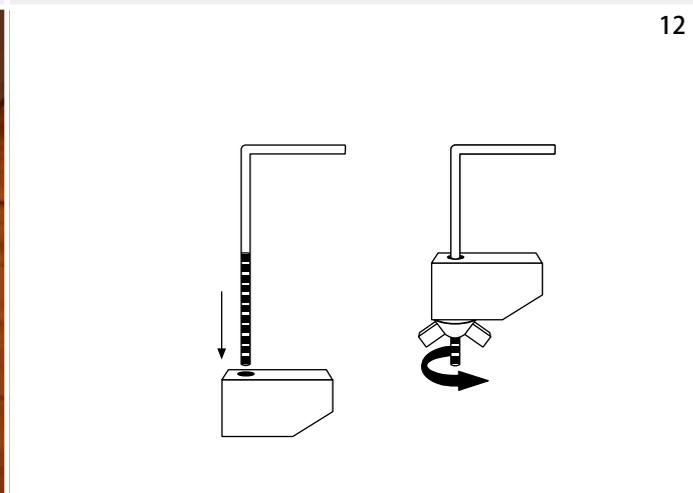
10

ワープスティック留めの矢印型の先端を、ワープスティックの穴に通します。



11

その先端をそのまま、ローラーの小さな穴の側から向こう側へと突き通します。



12

クランプを組み立てたら組み立ては終わりです。



ようこそ、素晴らしい手織りの世界へ・・・

サンプルイトルームは、織りのサンプラーはもちろんのこと、スカーフ、テーブルクロス、ランチョンマット、壁掛け、また縫い合わせて作る作品の部品を織るのに最適です。

まずは、あなただけのオリジナルスカーフを楽しみながら織ってみましょう。織り方は簡単。この説明書のステップ通りに進んでいくだけですぐにできてしまいます。

たて糸にプレーンな糸を、よこ糸にお気に入りのノベルティヤーンを用意したら、ステップ1～26でたて糸を張り、ステップ27～34で基本的な織り方を習得、ステップ66～68で仕上げたらできあがりです。

この行程で、7つのテクニックが入った、美しい織りサンプラーのスカーフができあがります。さらにステップ70～78では、ダブルヘッドル(二重織り)を詳しく解説しています。ぜひチャレンジして下さい。

アクセサリ

おさ 6種類 (10、20、30、40、50/10cm)。コンビおさ 羽数の違うおさを同時に使用できます。シャトル 2種類 (15cm、26cm)。ピックアップスティック、ルームスタンド。



サンプルスカーフの織り方

用意するもの

- ・よく切れるハサミ
- ・メジャーテープ
- ・テーブル
- ・厚紙製ワープスティック、または柔らかい紙 (幅約25cm)
- ・ダーニングニードル (かがり針) と編み棒

糸

- ・アシュフォード テカポ× 100g (たて糸全てとよこ糸の一部)
- ・お好みのノベルティヤーン×約 50g (よこ糸、数種類)

*この説明書では、たて糸とよこ糸に、アシュフォード テカポヤーンのストーンウォッシュを使用しています。なめらかな8プライダブルニットスポーツウェイトヤーン (ウール100%、200m/218ヤード、100g巻) で、さりげない手紡ぎの風合いが特徴です。

作品データ

たて糸の長さ	約1.4m (フリンジ部分 23cm を含む)
たて糸の数	74列
できあがりの幅	23cm

シェッド

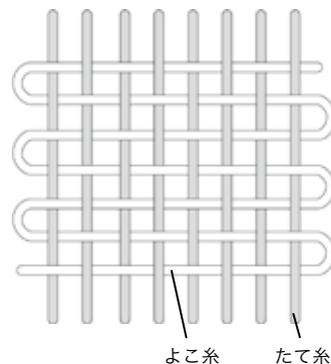
おさを上げた時、または下げた時に上下に開きたて糸の空間のことです。この空間によこ糸を巻いたシャトルを通します。

たて糸とよこ糸

織りの基本となる大切な2つの言葉を覚えましょう。

たて糸 織り機の前後のローラーに張る糸です。これによって織物の長さが決まります。

よこ糸 たて糸を上下にくぐらせながら、横に通す糸のことです。この動作によって織物になります。





ワーピングペグと、後ローラーとの距離が約2mになるように配置します。大きなテーブルがない場合は、同じ高さのテーブルを2台使うか、または片方にイスを使う方法(巻末に掲載)をお試し下さい。



後レールの穴にクランプを差し込み、織り機をしっかりとテーブルに固定します。

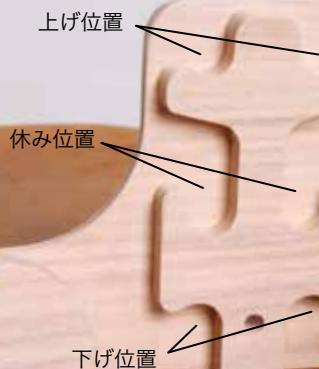


テーブルの反対側にワーピングペグを固定します。



底に切れ込みのある方が織り機の後ろになります。後ストッパーのツメがきちんと歯車にかかっているか確認して下さい。

05



サンプルイトルームは、標準で2枚のおさを使用(ダブルヘッドル)できるようにデザインされていますが、今回は1枚だけを使用します。

06



おさを**休み位置**に置きます。

07



おさに向かってワープスティックを引いた時に、ワープスティックとローラーとの間隔が6cmくらいになる様にローラーを調節します。たて糸をワープスティックに結びます。

08

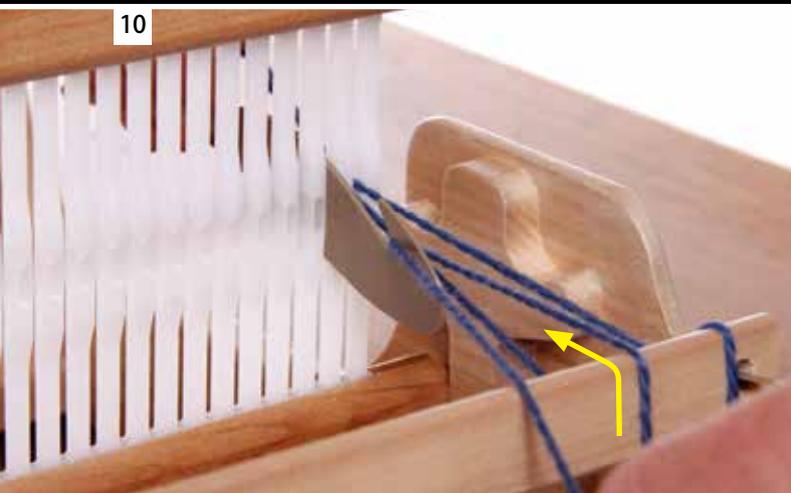


ワープスティックに結んだ糸を、おさの一番端のすき間から引き出します。



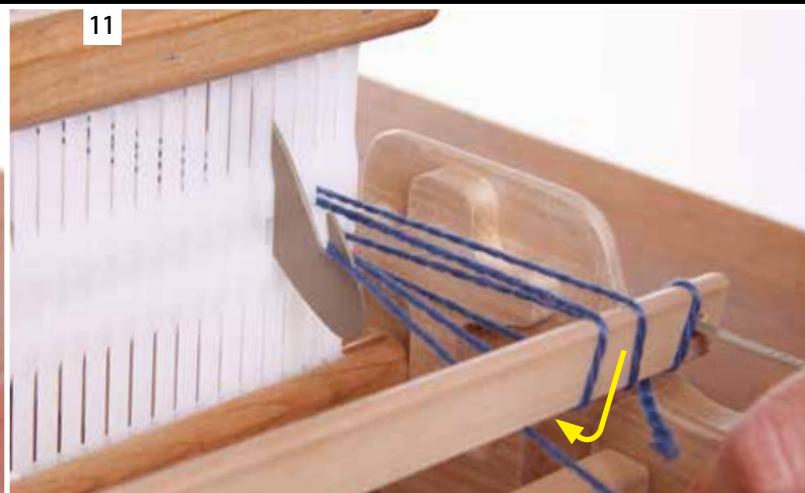
引きだした糸をワーピングペグまで持っていき、ペグに引っかけます。たて糸の玉は、織り機の後ろの床に置いておきます。毛糸玉が転がり回らないように、カゴなどに入れておくといいでしょう。

10



隣のすき間へ次の糸を通します。糸は毎回必ずワープスティックを通る様にして下さい。今回の糸はワープスティックの下から上へと通ります。通した糸は、またワーピングベグに引っかけます。糸の張りが均等になる様に心がけて下さい。

11



その次のすき間を通る糸は、ワープスティックを上から下へと通るはずでず。糸を通したら、また同じ様にワーピングベグに引っかけます。こうして、上から下、下から上へとワープスティックを巻きながら、全てのすき間に糸を通していきます。

12



最後のすき間に通した糸は、切ってワープスティックに結びます。たて糸の色を変えたり、糸を継ぐ場合も、必ずワープスティックのところで行います。前の糸を結んだら、そこに新しい糸を結んで続けます。糸の張りに注意して下さい。

13



全てのすき間に糸を通したら、ワーピングベグにかけた糸を束ねてしっかりと結びます。この糸は、後でほどきますので、ほどきやすい結び方にしておきましょう。



14

糸の張りが緩まないように、慎重にペグから糸の束を引き抜いたら、ペグが通っていた輪のところで全ての糸を切ります。



15

ここで、この糸の束をお友達に持ってもらいます。お友達には、これからあなたが後ローラーを回してたて糸を巻き取るにつれて、糸の張りを保ちながらだんだんと近づいてもらいます。

*この作業は1人でもできます。私たちのウェブサイトに掲載の Solo Warping Instructions をご覧ください。



16

織り機の後ろに立ってハンドルを手前に回し、ワープスティックがローラーを1周したところで一度止めて下さい。



17

巻いたたて糸がワープスティックを通り過ぎたところから、そこに厚紙製ワープスティックか、織り幅に切った紙を挿みこんでいきます。

18



たて糸を巻き取りながら、絶え間なく紙を挿んでいきます。この様に、糸同士が直接重ならないようにすることによって、お互いがくい込んでしまったり、くっついてしまうことを防ぎ、たて糸全体の張りが均等に保たれることになります。

19



たて糸の束が、前ローラーを通り過ぎたところで、巻き取りを止め、束ねてある糸をほどきます。ローラーはこれ以上巻かないようにして下さい。クランプを取り外して、織り機をテーブルからおろします。

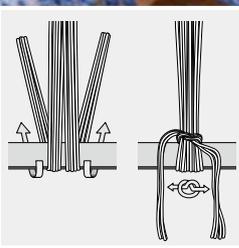
20



糸を通す時は、いつもやさしく慎重に引っぱりましょう。

すき間に通っている2本の糸のうち、1本を左となりの穴に移していきます。2本の糸を持ち上げ、おさの後ろで左側にある糸を慎重に引き抜いて、左となりの穴に通し直します。これをくり返し、全てのすき間と穴に1本ずつ糸が通っている状態にして下さい。

21



前ハンドルを巻き、ワープスティックとローラーの間隔を5cmに近づけます。たて糸を6等分して、真ん中の束から図の様にワープスティックに結びます。後で張りを調節しますので、この時点では1度だけ結いておきます。



全てのたて糸をワープスティックに結んだら、糸の張りにムラがないか確かめます。前ローラーを回し、糸にある程度の張りを持たせ、結び目を調節しながら全ての糸の張りを均等にしてください。



たて糸の張りが均等になったら、もう一度結んで張りを固定します。結び目は、織り上がった時にほどこしやすい様に、片結びにしておきます。

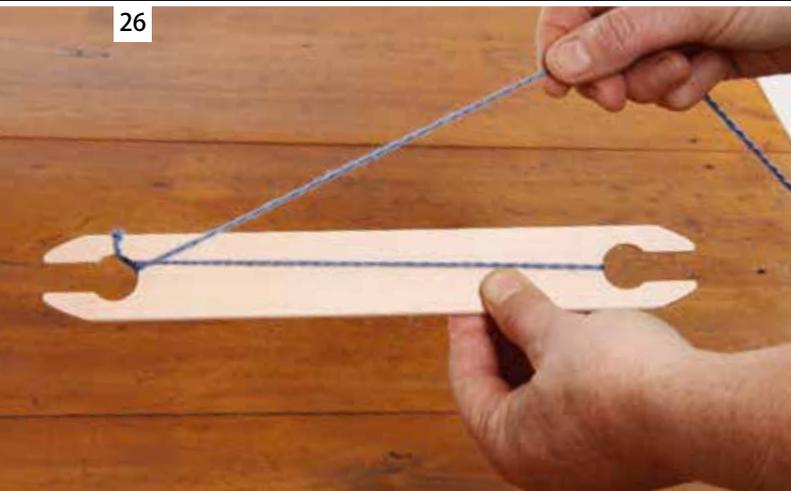


おさを**上げ位置**に置き、シェッドに厚紙製ワープスティックを通して、結び目まで引きよせます。



次におさを**下げ位置**に移し、同じ様に厚紙を挿んで手前に引きよせます。

26



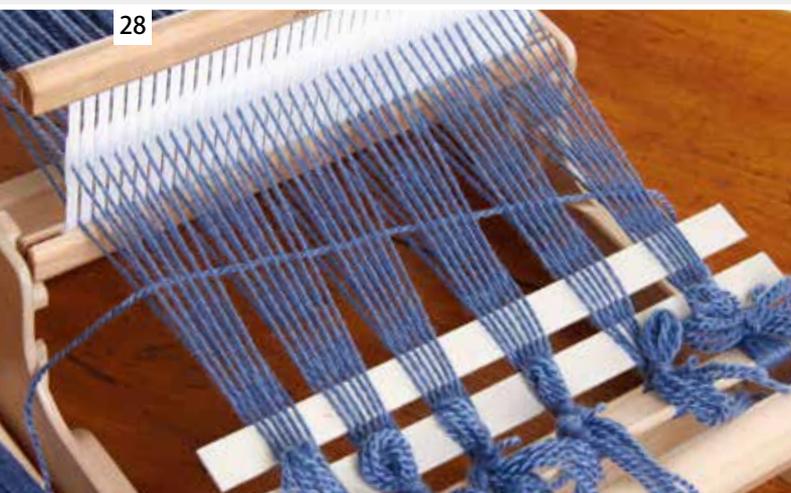
シャトルによこ糸を巻き取ります。

27



おさを上げ位置に置き、よこ糸をシュッドに通します。

28



よこ糸の始まりの端は、織物の外に5cm程残しておきます。通したよこ糸に角度(約20°)をつけてから打ち込むと、縁がきれいに仕上がります。よこ糸を強く引きすぎるとつれてしまいますの注意して下さい。

29



ゆっくりとおさを手前に引きよせて、1段目のよこ糸を厚紙のところまで押し込みます。



30

おさを**下げ位置**に置き、よこ糸の最初の端を指でシェッドに入れます。

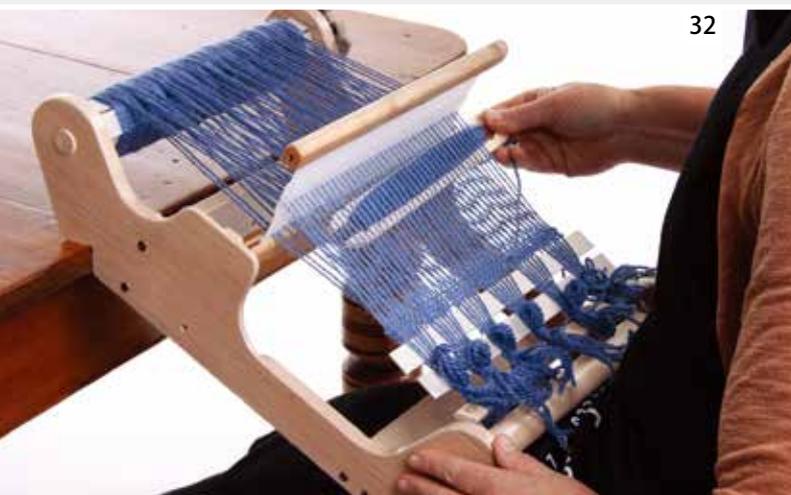


31

おさはやさしく打ち込んで下さい。今は目が荒く感じてても、仕上げの時に詰まります。

パターン1-平織り

おさは**下げ位置**のまま、2段目のよこ糸を通して丁寧に打ち込みます。



32

おさを**上げ位置**に移し、よこ糸を通して打ち込みます。このセットをあと8段くり返します。楽なイスに座り、織り機の底の切れ込みをテーブルの縁にかけて、腿の上で作業をします。



33

最後に織った段と、おさまでの間が8cmくらいに近づいたら、織った分を前ローラーに巻き取ります。おさを**休み位置**に置き、後ローラーのストッパーを外して、たて糸の張りを少しだけ緩めてから巻き取って下さい。

34



織物を巻き取る時は、たて糸が一度に緩んでしまわない様に、後ローラーに手を添えながら少しずつ巻きます。織った部分が手前に5cm見えるくらいまで巻いたら、後ストッパーをかけ直します。この様に、織るごとに少しずつ巻いていきます。

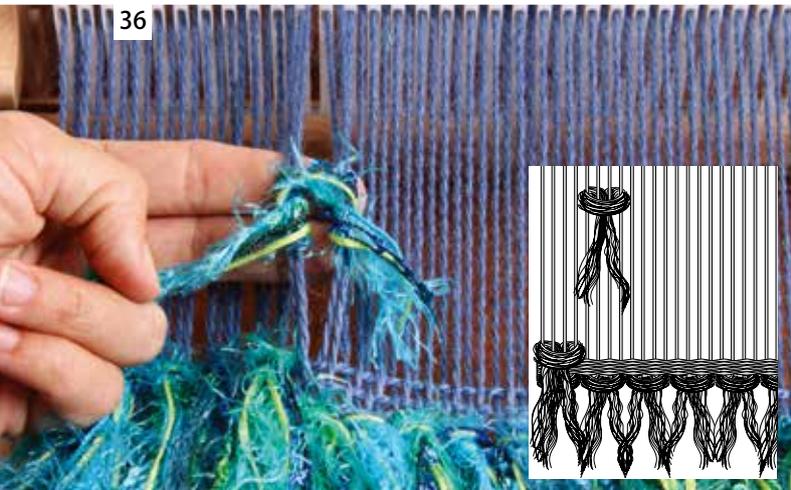
35



パターン2-リーヤノット (Rya Knot)

ノベルティヤーンを12cmくらいに切って、2〜3本ずつの束にします。

36



おさを**休み位置**に置き、ノベルティヤーンの束を図の様にたて糸に結んでいきます。

37



1段結び終わったら、次の段から3段を、たて糸と同じ糸で平織りにします。この様に、ノッティング1段と平織り3段のセットを、あと2回くり返します。



38

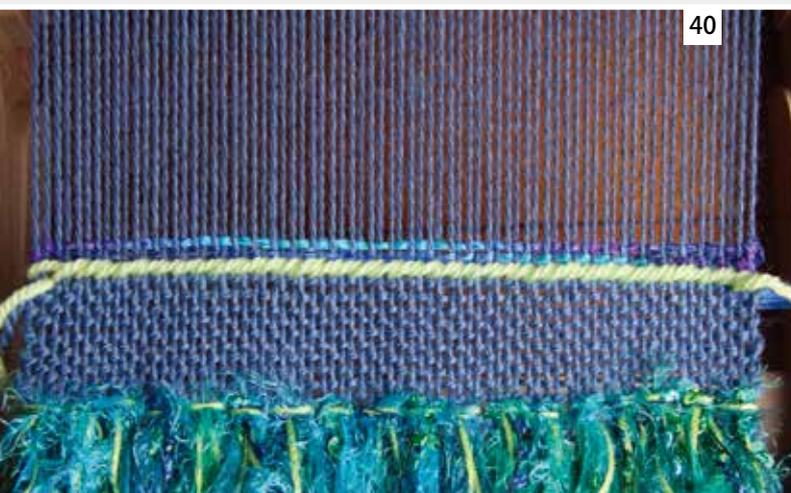
結んだノットを好みの長さに切りそろえ、平織りを10段入れたら、次のパターンに移ります。



39

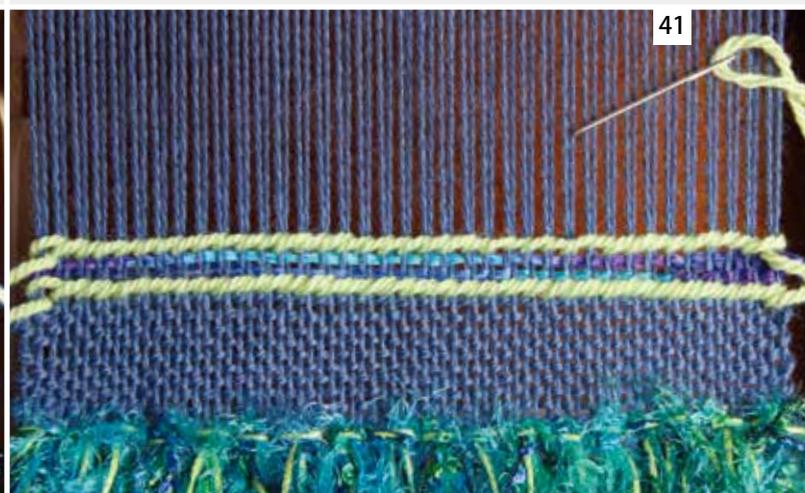
パターン3-スマック (Soumak)

おさを休み位置に置き、ダーニングニードルを使って、左から右へ織物をかがっていきます。4本進んで、2本戻るという風に1段かがって下さい。



40

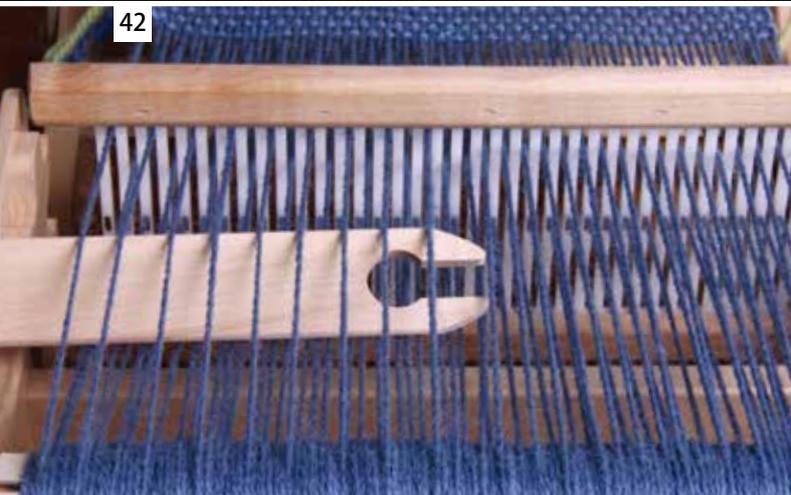
1段かがり終わったら、次の2段はノベルティヤーンで平織りにします。



41

次の段で再びステップ39をくり返し、その次から10段を平織りにします。

42



パターン4-テクスチャー織り

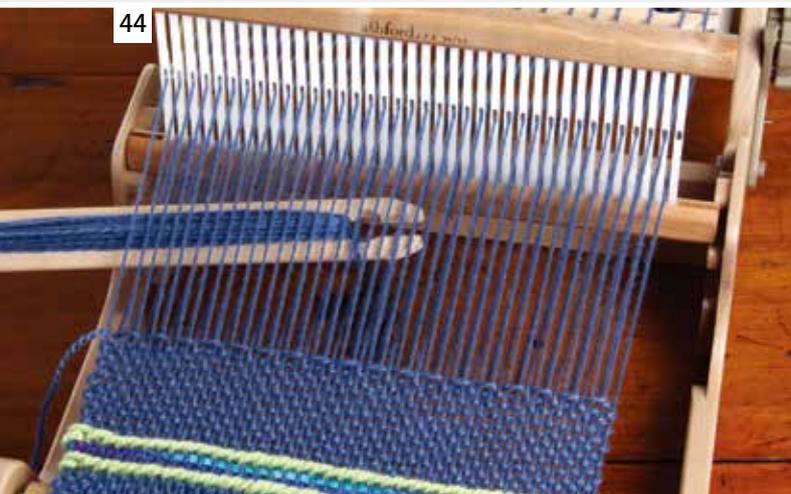
このパターンは4段で1セットになっています。おさを**下げ位置**にした時に上にくるたて糸を、**おさの裏側**でピックアップスティック(またはシャトル)を使って、1本おきに拾っていきます。

43



1段目 おさは**下げ位置**のまま、おさの裏側のピックアップスティックを立て、ここに第2のシェッドを作ります。この状態で1段目を織ります。

44



2段目 ここからは平織りです。おさの裏側のピックアップスティックは倒して、そのまま後ろローラーの方に寄せておきます。おさを**上げ位置**に移して、平織りにします。

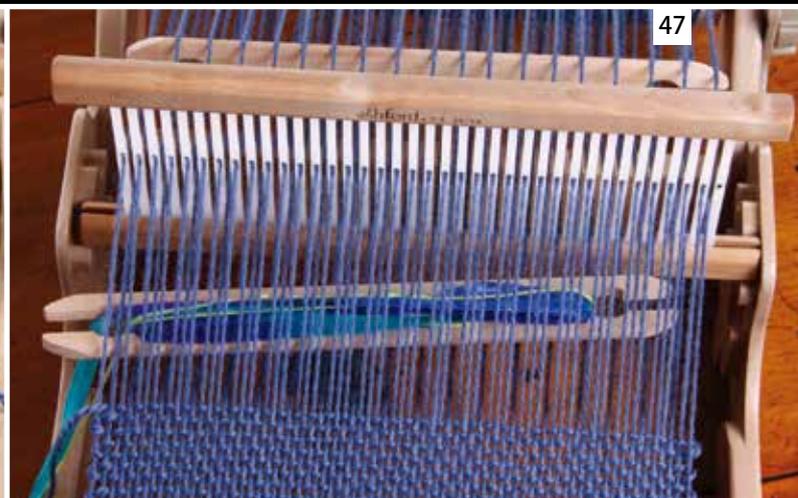
45



3段目 おさを**下げ位置**で1段織ります。
4段目 おさを**上げ位置**で1段織ります。
 *ピックアップスティックは動かしません。



このセットをあと4回くり返したら、最後に平織りを10段入れます。ピックアップスティックは、次のパターンでも使いますので、そのまましておきます。



パターン5- ウィンドウ織り

このパターンも4段で1セットになります。

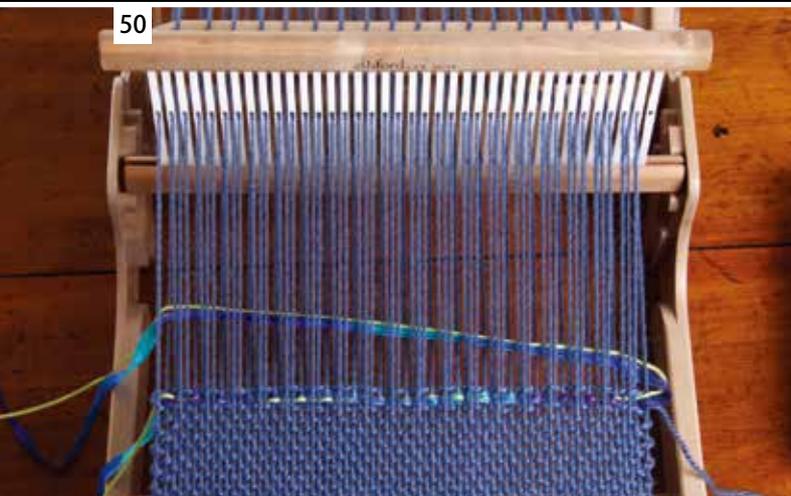
1段目 おさを上げ位置に置き、ピックアップスティックを立てて、ノベルティヤーンで1段織ります。



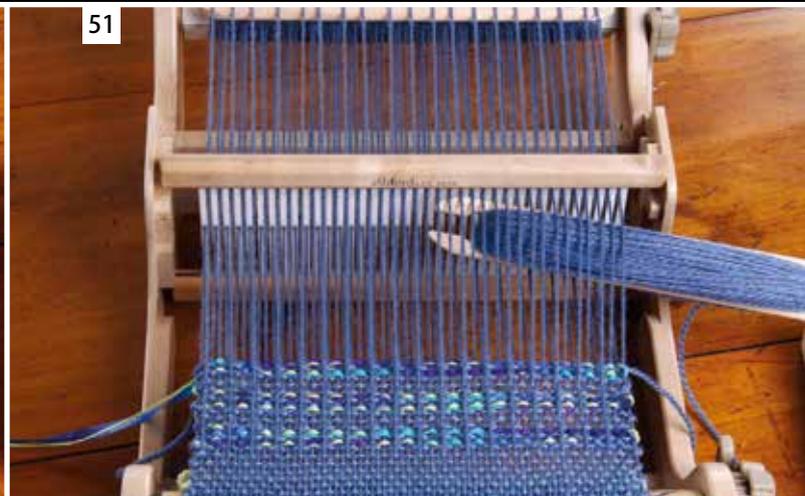
この時、一番端のたて糸を取り残してしまわない様に注意して下さい。



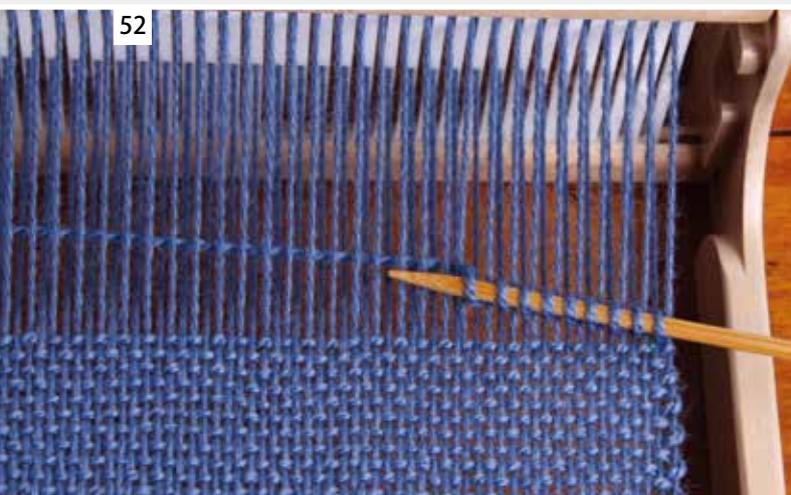
2段目 ピックアップスティックを倒して、後ローラーに寄せたら、おさを下げ位置にして、平織りを1段入れます。



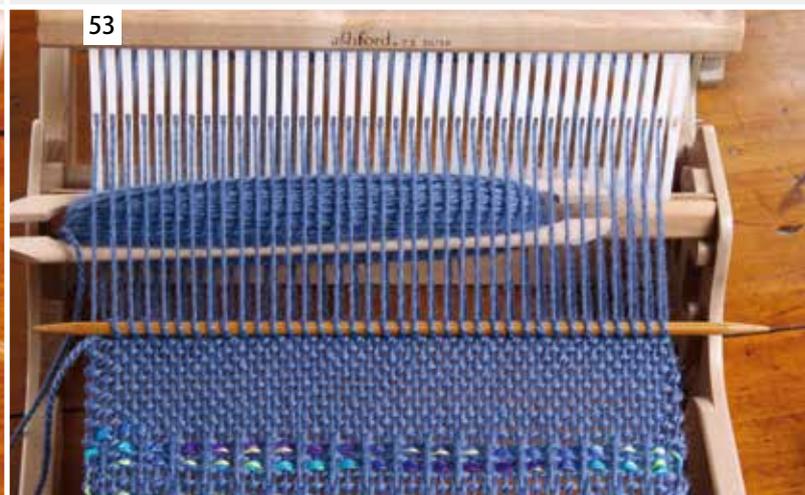
50
3段目 1段目(ステップ47)をくり返します。



51
4段目 平織りをします。
その後さらに2段の平織りを入れ、それまでのセット(1~4段目+平織り2段)をあと2回くり返します。そして、最後に平織りを7段織って、次のパターンに進みます。



52
パターン6-パイルループ
1段目 おさを下げ位置に置き、よこ糸を右から左に通した後、打ち込む前に、たて糸2本毎によこ糸を編み棒で拾っていきます。編み棒に糸を巻きつけるようにして、小さなループを作っていきます。



53
2段目 おさを上げ位置に置き、次の段は平織りにします。



54

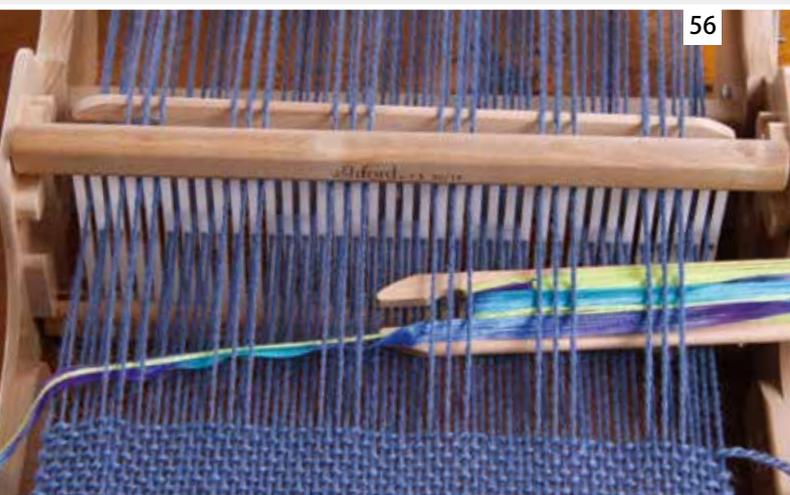
編み棒を慎重に引き抜き、よこ糸とループをしっかりと打ち込みます。このセットをあと2回くり返します。その後、平織りを10段入れます。



55

パターン7-ウェフトフロート

このパターンは2段で1セットです。おさを下げ位置に置き、おさの裏側のたて糸をピックアップスティックで拾います。端の2本をとばした後、3本拾っては3本とばすをくり返します。



56

1段目 おさは下げ位置のまま、ピックアップスティックを立てて、ノベルティヤーンで1段織ります。織ったら、ピックアップスティックを倒して後ローラーに寄せておきます。



57

2段目 おさを上げ位置に置き、平織りを1段。この時、ノベルティヤーン(よこ糸)が一番端のたて糸を取り残してしまわない様に注意して下さい。よこ糸は常に一番端のたて糸を回ってから、次のシェッドに通します。

58



このセットをあと2回くり返したら、そのまま平織りを20段します。

59



パターン8-ブルックスブーケ

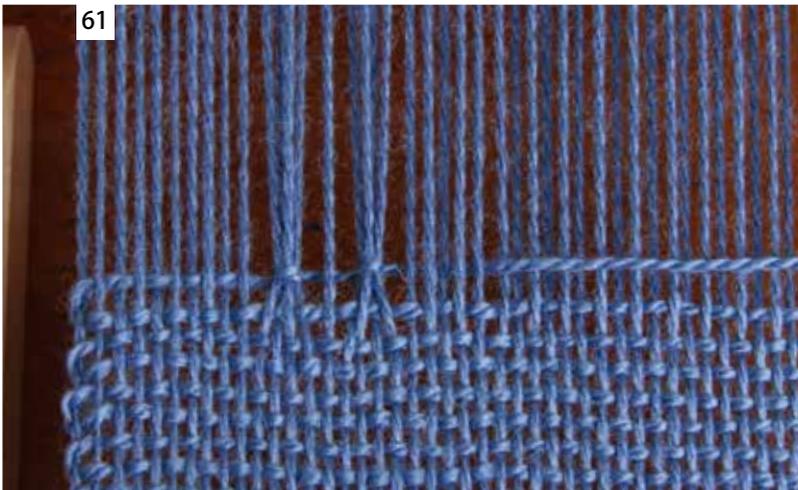
おさを下げ位置に置き、よこ糸を通しますが、今回はたて糸を6本くぐらせたところでシャトルを表に出し、ここで一度打ち込みます。この部分が外側のボーダーになります。

60



おさを**休み位置**に置き、同じ場所からシャトルを裏に通し、さらにたて糸を5本くぐらせて表に出します。そして4本戻って再び裏に通し、9本進んで表に出します。最後によこ糸を軽く引っぱって、たて糸の束を作ってください。

61



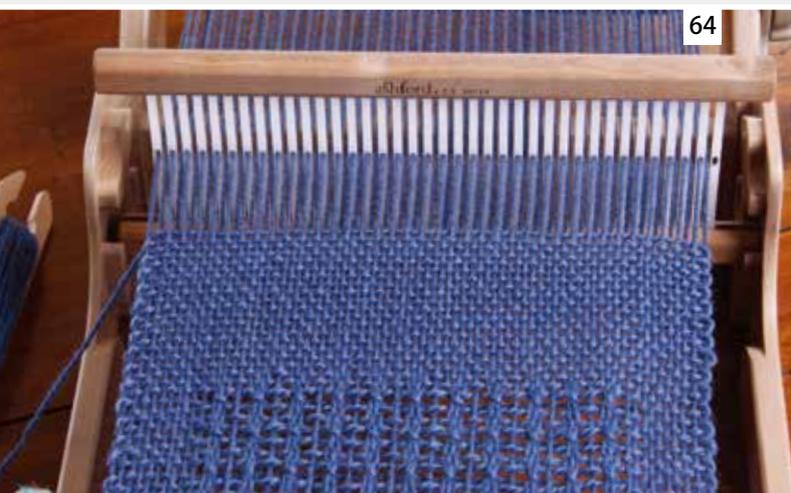
その後も、4本戻って裏、9本進んで表・・・をくり返します。残りたて糸が10本になったら止めて下さい。この10本が外側のボーダーとなります。



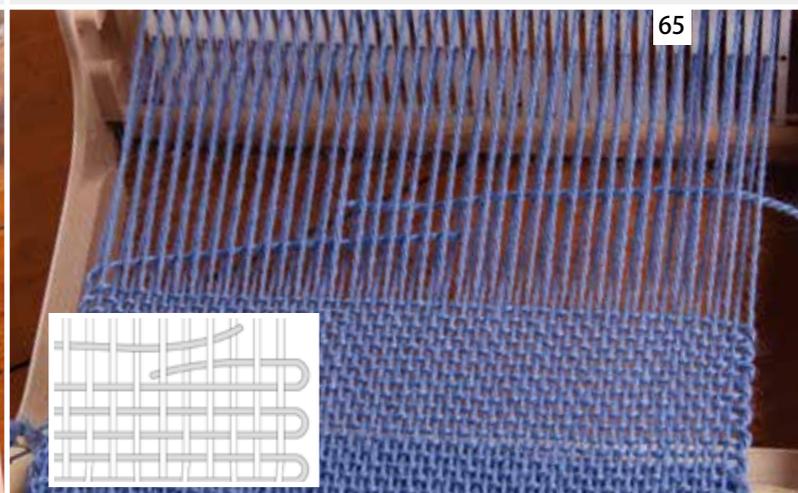
おさを**下げ位置**に置き、残りの部分によこ糸を通して、やさしく打ち込みます。



このパターンは、これまでの手順の後に、3段の平織りを加えて1セットです。このセットをあと4回(計5回)くり返した後、平織りを20段入れてこのパターンは終わりです。



さあ、これで半分が織り上がりました。ここからは、パターン7、6、5・・・と、今までの手順を逆に進んでいきます。パターン3(スマック)のかがっていく方向も、逆(右から左)に進んで下さい。



よこ糸の継ぎ足し方 途中でよこ糸がなくなったら、シャトルに新しい糸を巻きます。シェッドの中で、新しい糸の端と前の糸の端とが重なるようにして打ち込みます。

66



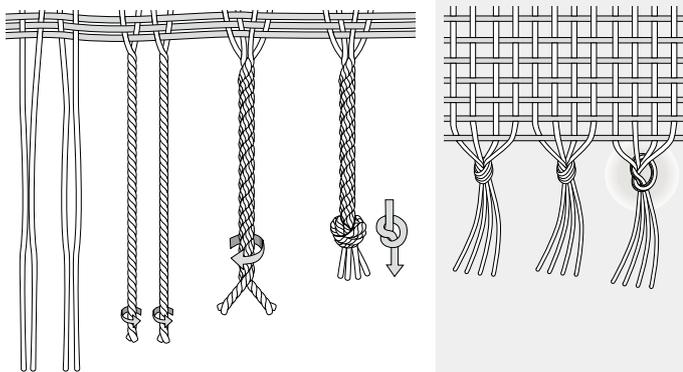
たて糸の終わりには、フリンジの長さを十分に残しておきます。よこ糸を適当な長さで切ったら、ワープスティックにそってたて糸を切ります。この時に、ワープスティック留めまで切ってしまう様に気をつけて下さい。

67



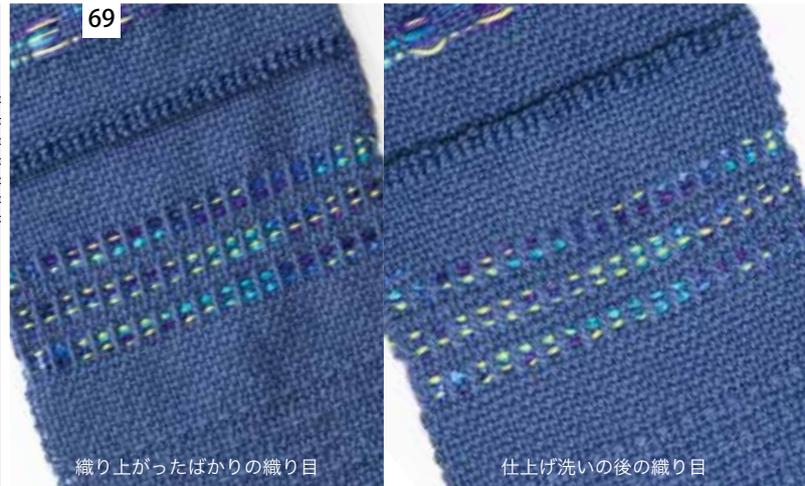
前ストッパーを外して織物を引き出します。ワープスティックに結んであるたて糸をほどき、織物を織り機から下ろします。テーブルなどに作品を広げ、挟んである厚紙を取り除きます。

68



たて糸を4本ずつの束に分け、それぞれをフリンジにします。普通に結わくか、ツイストフリンジ(上左図)にします。ツイストフリンジには、ぜひアシュフォードのフリンジツイスターをご利用下さい。最後に、よこ糸の端をかぎ針で織物に編み込みます。

69



織り上がったばかりの織り目

仕上げ洗いの後の織り目

詳しい洗い方は、次のページをご覧ください。

仕上げ

織り上がった作品は、必ず仕上げ洗いをしましょう。洗うと糸が膨らんで、それまですき間のあった糸と糸との目が詰まり、ぐっと完成度が上がります。

洗い方

洗剤をほんの少し溶かしたぬるま湯で、軽く押し洗いをします。数回押しした後、そのお湯を捨て、同じくらいの温度のお湯ですすぎます。平らに広げて乾かします。水分が残っているうちに、綿の手ぬぐいなどをあてて、低温のアイロンで圧するといいでしょう。

大きなテーブルがない場合

十分な大きさのテーブルがなかったり、小さなテーブルが1台しかない場合は、テーブルに織り機を固定して、ペグの代わりにイスの背を使うこともできます。この場合は、イスの背に直接たて糸をかけますので、糸が外れない様になるべく重くて、背の真っすぐなイスが向いています。



ヒント

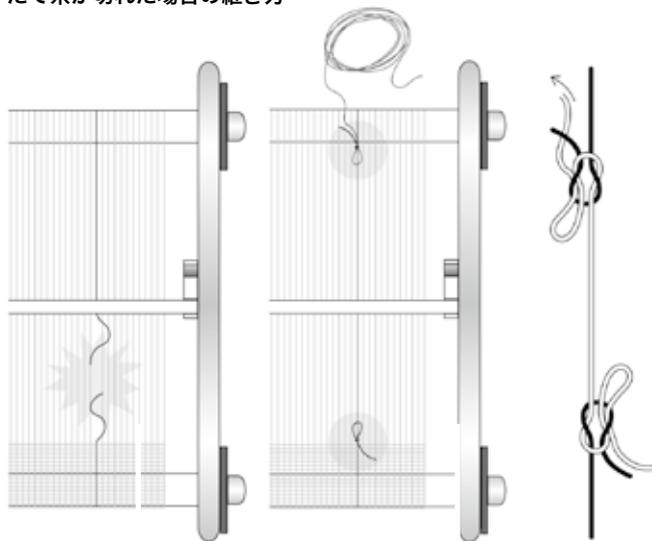
結び方

たて糸張りから織り上がりまでの一連の作業で何かを結ぶ時は、後でほどくものがほとんどです。いずれもほどきやすい結び方で結んでおきましょう。

打ち込み

おさはやさしく打ち込みましょう。織っている時に織り目が粗く感じても、織り機から外して張りがなくなると目が詰まります。さらに、仕上げ洗いでまた一段と密になります。

たて糸が切れた場合の継ぎ方



サンプルイトルームで織る

ダブルウィーブのシャトルホルダー

初めての二重織りにぴったりの作品です。2枚のおさを使って2層の織物を同時に織ります。たて糸張りの工程が解りやすいように、2枚の層をそれぞれ違う色(白と黒)にしてあります。

用意するもの

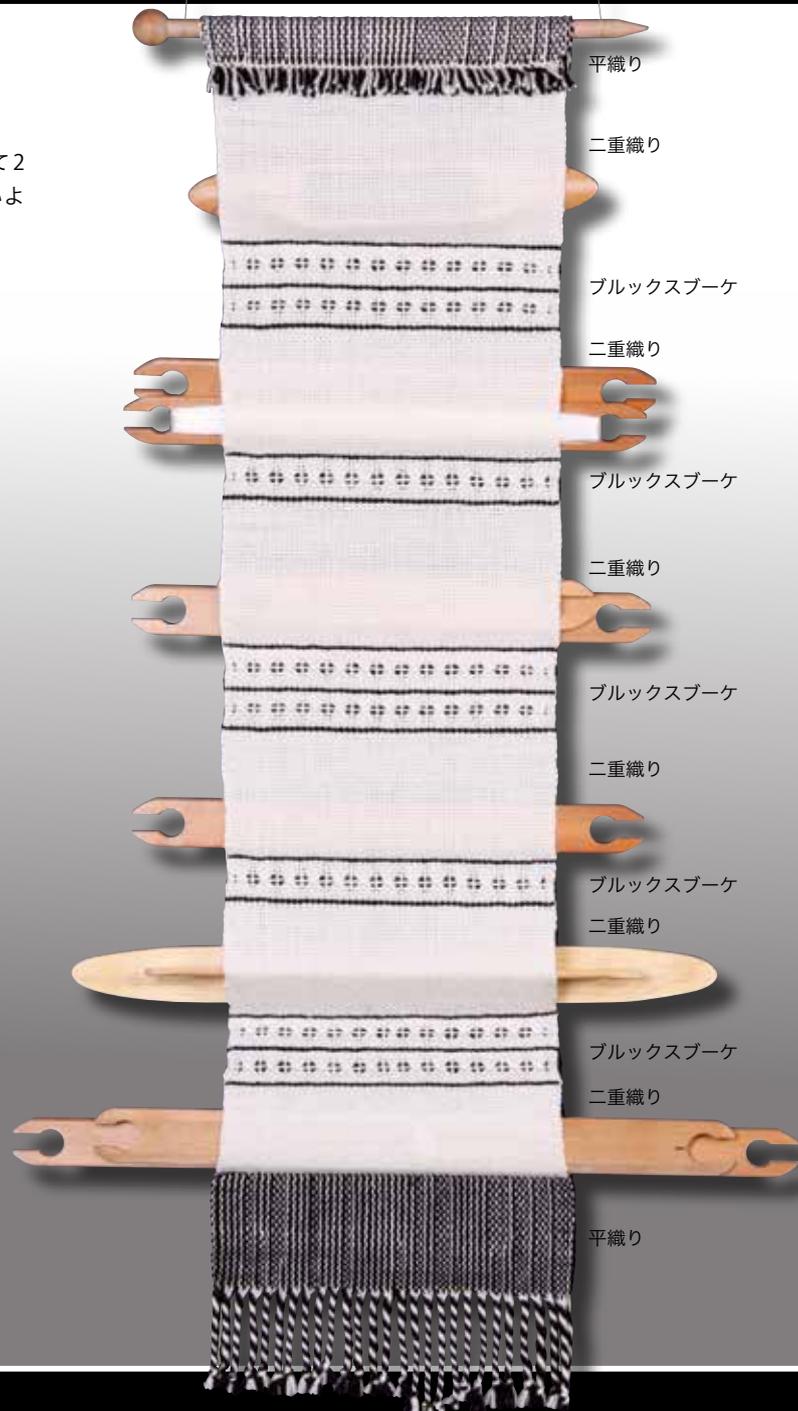
- ・ 40/10cmのおさ×2枚
- ・ よく切れるハサミ
- ・ テーブル
- ・ 厚紙製ワープスティック、または柔らかい紙(幅約25cm)
- ・ ダーニングニードル(かがり針)

糸

- ・ アシュフォード マッケンジーヤーン4プライ
白×100g、黒×100g
(メリーノ100%、385m/421ヤード、100g巻)

作品データ

たて糸の長さ	約1.8m(両フリンジ部分10cmを含む)
たて糸の数	192列
できあがりの幅	23cm





70

1枚目のおさを後ろの休み位置にセットします。今回は、おさの1つのすき間に、白い糸を1対、黒い糸を1対の、合わせて4本を通していきます。ステップ12～19の要領で、たて糸を張って下さい。



71

おさの一番左のすき間から、黒い糸を1本だけ抜き取り、右となりの穴に通していきます。この作業を最後までくり返して下さい。



72

2枚目のおさを手前の休み位置にセットします。後ろのおさの糸を前のおさの上にかぶせ(この様にすると作業が簡単です)、前のおさの一番左のすき間から、その真後ろのすき間の3本(白、白、黒)と、穴からの1本(黒)の合計4本をいっぺんに引き出します。



73

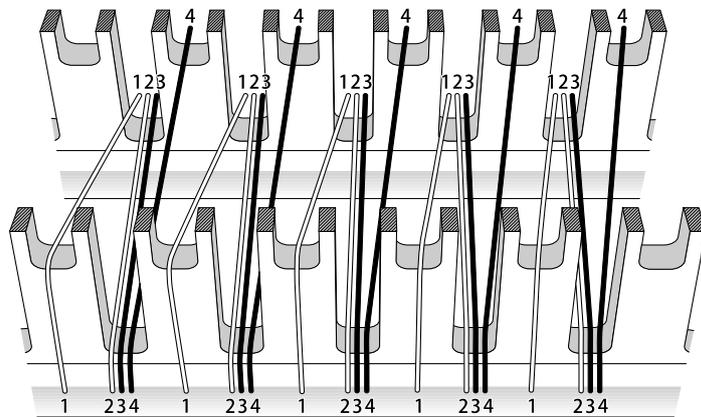
この作業を続けて、前のおさのすき間全てから4本の糸(白2、黒2)が出ている状態にします。

74



再び一番左のすき間に戻り、出ている4本の糸を手で取り、黒のペアを下げ、白のペアを持ち上げます。次に白のペアのうち1本(上、または左側に位置している方)を左となりの穴へ移していきます。

75



これをおさの最後まで繰り返します。前後のおさの間で、糸が交差しない様に注意して下さい。交差していないことを確認したら、ステップ21～25の要領で、たて糸をワープスティックに結びます。

76



平織り

たて糸は2本ずつ上下します。両方のおさを上げて1段、両方のおさを下げて1段、再び両方のおさを上げて1段織ります。おさを動かす時は、前のおさをぶら下げたままにしておきます。

新しいシェッドを作ります。

77



ピックアップスティックA

ピックアップスティックB

ピックアップスティックA - 両方のおさを下げ位置に置き、後ろのおさの裏側で上になっている白い糸を全て持ち上げて通します。

ピックアップスティックB - 両方のおさを上げ位置に置き、ピックアップスティックAを手前にずらし、そうしてできた下のシェッドに通します。スティックは両方とも後ローラーの方へ寄せておきます。

二重織り

2枚の織物を重ねて同時に織る方法は、意外に簡単です。ただ、その時に使っているよこ糸と、別のよこ糸が交差しない様に気をつけて下さい。

上の層(白)

シェッド1 (前後=休) - ピックアップスティックAを手前にずらして立てます。白い糸で1段織ったら、ピックアップスティックAを元に戻します。

シェッド2 (前=上、後=休) - 白い糸で1段織ります。

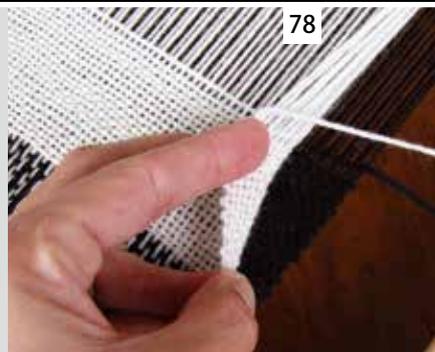
下の層(黒)

シェッド3 (前後=休) - ピックアップスティックBを手前にずらして立てます。黒い糸で1段織ったら、ピックアップスティックBを元に戻します。

シェッド4 (前=休、後=下) - 黒い糸で1段織ります。

この様に、まず上の層、次に下の層と、希望の長さになるまでこの手順をくり返します。

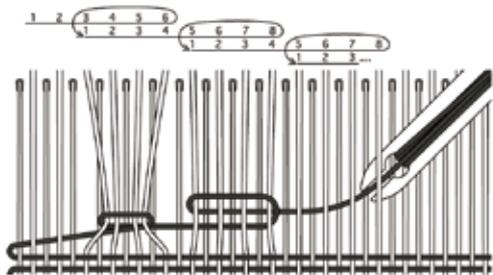
上下の層をつなげたい時は、後ろのおさを上げ位置にして、黒か白どちらかのよこ糸を通します。



ブルックスプーケ

美しいレース模様が、裏面の黒を引き立てます。

1. 黒い層(下)と、白い層(上)を4段ずつ織ります。
2. 黒い層をさらに4段織ります。
3. 両方のおさを休み位置に置き、ピックアップスティックAを手前にずらして立てます。
4. 白い層の最初の6本を拾ったら、4本戻って4本進み、糸を軽く引いてたて糸の束を作ります。
5. 続いて、4本拾っては4本戻る、その後は、8本くぐらせて4本戻るのくり返します。
6. 指でプーケ(糸の束)を整えながら作業を進めるときれいに仕上がります。



7. たて糸が最後の6本になったら、ピックアップスティックで4本を拾い、その4本で束を作ったら、残りの2本をくぐらせて段を終わらせます。
8. 上下の層を4段ずつ織ります。
9. 上下の層をつなげます。
10. これまでの1~9の手順を続けます。



仕上げ 織り上がったら、上の縁をかがり縫いにするか、ミシンでジグザグステッチにして留めます。吊るした時に下になる方の端は、ツイストフリンジで仕上げてください。ぬるま湯で押し洗いをしたら、平らなところに広げて干します。織物の上の端を3cm程折って縫い、吊るすための棒が入るようにします。



より詳しい解説やヒント、作品のアイデアにつきましては、アシュフォードの本「The Ashford Book of Rigid Heddle Weaving」をお勧めします。また、私たちのホームページのハウツービデオもぜひご覧ください。

ashford
WHEELS & LOOMS

Ashford Handicrafts Limited
Factory and Showroom: 415 West Street
P O Box 474, Ashburton, New Zealand
Telephone: +64 3 308 9087
Facsimile: +64 3 308 8664
Email: sales@ashford.co.nz
Internet: <http://www.ashford.co.nz>

